

# 月 別 市 況

## 1 月

1月の取扱頭数は、牛 9,644.0 頭、豚 27,134.0 頭、1日平均取扱頭数は、牛 536 頭(前月比 84.8%)、豚 1,507 頭(前月比 125.1%)であった。

入荷は牛減少、豚は順調。

相場は、前年同月比の下げ幅は縮小したものの、不況による消費低迷、鍋物需要不振などによる越年在庫の増加の影響もあって全般的に弱気相場が引き続いたことから、和牛・乳牛とも価格を下げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,972 円、乳牛(B-3)1,250 円であった。

豚生体(上規格)は、年末年始の需要が低迷したため、問屋筋が越年在庫を抱えたことや、輸入物ロイン系の出回り増加が原因となって、平均価格は 376 円(前年比 40 円安)と下げた。

豚の取引は、全国出荷頭数 1,397,573 頭で、一日平均 77,643 頭と前月比 21.9%増。相場は弱含み。

輸入牛肉は、取扱量 79.2 トン(前月比 76.7%)で、平均価格は 600 円で前月比 39 円安となった。

## 2 月

2月の取扱頭数は、牛 11,334.5 頭、豚 27,605.0 頭、1日平均取扱頭数は、牛 597 頭(前月比 111.3%)豚 1,453 頭(前月比 96.4%)であった。

入荷は牛順調、豚は減少。

相場は、特売需要も輸入牛肉・他の生鮮食料品等にシェアを奪われ、供給過多の状況も重なって、前年同月比は出荷頭数が少ない高級物を除き安値基調の推移となったが、和牛・乳牛とも全般に前年並みの価格となった。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,955 円、乳牛(B-3)1,266 円であった。

豚生体(上規格)は、月初めに基準価格を割り込んで推移したが、その後急騰し乱高下の展開となったことから、平均価格は 415 円(前月比 39 円高)と上げた。

豚の取引は、全国出荷頭数 1,359,822 頭で、1日平均 71,570 頭と前月比 7.8%減。相場は強含み。

輸入牛肉は、取扱量 614.5 トン(前月比 776.1%)で、平均価格は 1,404 円で前月比 804 円高となった。

## 3 月

3月の取扱頭数は、牛 12,153.0 頭、豚 28,909.0 頭、1日平均取扱頭数は、牛 552 頭(前月比 92.5%)豚 1,314 頭(前月比 90.4%)であった。

入荷は牛・豚ともに減少。

相場は、不況による消費低迷と決算期を控え中旬までは弱気配で推移していたが、月替わりとなる最終週に向けては、新年度以降の先高感も強く小反発したものの、和牛・乳牛とも全般的には前月より値下がりした。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,894 円、乳牛(B-3)1,217 円であった。

豚生体(上規格)は、全国出荷頭数が予想以上に少な目だったことが要因となり、平均価格は 441 円(前月比 26 円高)と上げた。

豚の取引は、全国出荷頭数 1,499,759 頭で、1日平均 68,171 頭と前月比 4.8%減。相場は強保合。

輸入牛肉は、取扱量 642.7 トン(前月比 104.6%)で、平均価格は 1,399 円で前月比 5 円安となった。

## 4 月

4月の取扱頭数は、牛 12,669.5 頭、豚 29,052.0 頭、1日平均取扱頭数は、牛 603 頭(前月比 109.2%)豚 1,383 頭(前月比 105.3%)であった。

入荷は牛・豚ともに増加。

相場は、末端消費が相変わらず不振続きの中、売れ行きを中心に国産牛肉・和牛のスソ物と芳しくなかったが、出荷頭数の減少と連休直前に手当てが動いたため、和牛・乳牛とも前月に比べ価格を上げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,975 円、乳牛(B-3)1,224 円であった。

豚生体(上規格)は、最終週にロイン系不振による高値警戒の動きが見られたものの、月半ばには 400 円台後半で堅調に推移したことから平均価格は 455 円(前月比 14 円高)と上げた。

豚の取引は、全国出荷頭数 1,457,497 頭で、1日平均 69,405 頭と前月比 1.8%増。相場は強含み。

輸入牛肉は、取扱量 742.4 トン(前月比 115.5%)で、平均価格は 1,042 円で前月比 357 円安となった。

## 5 月

5月の取扱頭数は、牛 10,281.0 頭、豚 24,978.0 頭、1日平均取扱頭数は、牛 541 頭(前月比 89.7%)豚 1,315 頭(前月比 95.1%)であった。

入荷は牛・豚とも減少。

相場は、消費低迷を背景に新年度より軟調となっていたが、大型連休明けも弱気配を継続する格好で、依然消費鈍く一段安となり、和牛は前月に比べ大幅に価格を下げた。一方、乳牛は入荷が減少したため堅調となった。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,875 円、乳牛(B-3)1,139 円であった。

豚生体(上規格)は、連休明けこそ買い気が強かったものの、末端消費は売れ行きが芳しくなく、月半ばには 400 円台前半まで下げたことから平均価格は 439 円(前月比 16 円安)と下げた。

豚の取引は、全国出荷頭数 1,286,820 頭で、1日平均 67,727 頭と前月比 2.4%減。相場は弱含み。

輸入牛肉は、取扱量 60.4 トン(前月比 8.1%)で、平均価格は 663 円で前月比 379 円安となった。

## 6 月

6月の取扱頭数は、牛 11,269.5 頭、豚 26,033.0 頭、1日平均取扱頭数は、牛 512 頭(前月比 94.6%)豚 1,183 頭(前月比 90.0%)であった。

入荷は牛・豚とも減少。

相場は、需要の端境期に入ったことに加え、長引く不況による消費の低迷を反映して例年以上の需要不振となり、和牛・乳牛とも価格を下げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,865 円、乳牛(B-3)1,031 円であった。

豚生体(上規格)は、月替わりから相場が高騰し 500 円台後半の展開で上げ基調となるなど、夏場の需要期を前に買い気が集中したことや、全国出荷頭数が少なかったこと等から平均価格は 528 円(前月比 89 円高)と大きく上げた。

豚の取引は、全国出荷頭数 1,352,179 頭で、1日平均 61,463 頭と前月比 9.2%減。相場は強保合。

輸入牛肉は、取扱量 72.3 トン(前月比 119.7%)で、平均価格は 595 円で前月比 68 円安となった。

7 月

7月の取扱頭数は、牛 12,084.0 頭、豚 25,126.0 頭、1 日平均取扱頭数は、牛 575 頭(前月比 112.3%)豚 1,196 頭(前月比 112.3%)であった。

入荷は牛・豚ともに増加。

相場は、季節需要が高まったことに加え、供給面では、輸入物がそれほど増えなかったことから、和牛・乳牛とも前月は上回ったが、前年は下回った。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,970 円、乳牛(B-3)1,175 円であった。

豚生体(上規格)は、月半ばにかけ 500 円台後半から 600 円台に向けて上げ基調となっていたが、その後は全国出荷頭数が多めだったことや、天候不順などで軟調となった事から平均価格は 515 円(前月比 13 円安)と下げた。

豚の取引は、全国出荷頭数 1,319,998 頭で、1 日平均 62,857 頭と前月比 2.3%増。相場は弱含み。

輸入牛肉は、取扱量 85.1 トン(前月比 117.7%)で、平均価格は 673 円で前月比 78 円高となった。

8 月

8月の取扱頭数は、牛 11,773.5 頭、豚 24,774.0 頭、1 日平均取扱頭数は、牛 561 頭(前月比 97.6%)豚 1,180 頭(前月比 98.7%)であった。

入荷は牛・豚とも減少。

相場は、猛暑が続き天候の条件は良かったものの、消費マインドの冷え込みにより、単価の高い牛肉は敬遠される形となり、和牛・乳牛とも前月比・前年比ともに価格を下げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,868 円、乳牛(B-3)1,166 円であった。

豚生体(上規格)は、国産物のテーブルミート需要が活発化したことや、全国出荷頭数が 6 万頭前後と少な目だったこと等から堅調に推移し、平均価格は、543 円(前月比 28 円高)と上げた。

豚の取引は、全国出荷頭数 1,319,844 頭で、1 日平均 62,850 頭と前月よりわずかに減少した。相場は強含み。

輸入牛肉は、取扱量 119.3 トン(前月比 140.2%)で、平均価格は 619 円で前月比 54 円安となった。

9 月

9月の取扱頭数は、牛 12,058.0 頭、豚 25,281.0 頭、1 日平均取扱頭数は、牛 603 頭(前月比 107.5%)豚 1,264 頭(前月比 107.1%)であった。

入荷は牛・豚とも増加。

相場は、残暑で牛肉の夏場需要が引き続いたことに加え、鍋物の手当て等が早めに動いたこと等から全般に強気の展開となり、和牛は前年比では価格を下けているものの、前月比では価格を上げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,924 円、乳牛(B-3)1,257 円であった。

豚生体(上規格)は、猛暑による影響で 9 月半ば過ぎまでは、品薄や末端消費の好調から高値で推移したが、下旬には 400 円台まで反落したため、平均価格は 501 円(前月比 42 円安)と下げた。

豚の取引は、全国出荷頭数 1,365,236 頭で、1 日平均 68,262 頭と前月比 8.6%増。相場は弱保合。

輸入牛肉は、取扱量 59.9 トン(前月比 50.2%)で、平均価格は 515 円で前月比 104 円安となった。

10 月

10月の取扱頭数は牛 12,226.0 頭、豚 27,988.5 頭、1 日平均取扱頭数は牛 611 頭(前月比 101.3%)豚 1,399 頭(前月比 110.7%)であった。

入荷は牛・豚とも増加。

相場は、上旬こそ出荷頭数が少なかったこと、量販店等のイベント需要から相場は堅調に推移していたが、その後は不調を強いられ、和牛は前月比で価格を下げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,863 円、乳牛(B-3)1,234 円であった。

豚生体(上規格)は、上旬は、全国出荷頭数が 6 万頭前半と少ない日が続いたため、例年と比べ堅調な展開を見せていたが、出荷頭数の増加傾向が顕著となった中旬以降は、330 円台まで下げ進み、平均価格は 382 円(前月比 119 円安)と大きく下げた。

豚の取引は、全国出荷頭数 1,416,089 頭で、1 日平均 70,804 頭と前月比 3.7%増。相場は軟調。

輸入牛肉は、取扱量 72.8 トン(前月比 121.5%)で、平均価格は 622 円で前月比 107 円高となった。

11 月

11月の取扱頭数は、牛 13,401.0 頭、豚 30,613.5 頭、1 日平均取扱頭数は牛 609 頭(前月比 99.7%)豚 1,392 頭(前月比 99.5%)であった。

入荷は牛・豚とも横ばい。

相場は、末端消費の停滞に加え、暖かい日が続いたことにより鍋物需要が伸び悩み、全般にやや軟調な展開となったため、和牛は前月比・前年比ともに価格を下げた。牛枝肉(生体去勢)の月間平均価格は、和牛(A-4)1,887 円、乳牛(B-3)1,222 円であった。

豚生体(上規格)は、10 月下旬から続いた安値基調が好転することなく、中旬を過ぎても安定基準価格を下回って推移し、下旬には今年の最安値を記録するなど回復が見えなかったことから、平均価格は 346 円(前月比 36 円安)と下げた。

豚の取引は、全国出荷頭数 1,540,554 頭で、1 日平均 70,025 頭と前月比 1.1%減。相場は弱保合。

輸入牛肉は、取扱量 118.2 トン(前月比 162.4%)で、平均価格は 498 円で前月比 124 円安となった。

12 月

12月の取扱頭数は、牛 17,007.5 頭、豚 30,578.0 頭、1 日平均取扱頭数は、牛 680 頭(前月比 111.7%)豚 1,233 頭(前月比 87.9%)であった。

入荷は牛増加、豚は減少。

相場は、不況下で消費不振が懸念されたが、上旬から中旬にかけて年末年始の手当てが動いたため、全体としてはまずまずの展開となり、和牛は前月比では価格を上げた。牛枝肉の月間平均価格は、和牛(A-4)2,028 円、乳牛(B-3)1,287 円であった。

豚生体(上規格)は、11 月から安定基準価格割れの推移となったため、13 日から調整保管による買入れが開始されたことから、中旬以降は安定基準価格をほぼ上回り、平均価格は 371 円(前月比 25 円高)と上げた。

豚の取引は、全国出荷頭数 1,555,128 頭で、1 日平均 62,205 頭と前月比 11.2%減。相場は強含み。

輸入牛肉は、取扱量 122.2 トン(前月比 94.9%)で、平均価格は 714 円で前月比 216 円高となった。